第一号議案（1）

環境経営学会　２００６年度　事業報告

概要：平成 18 年度の学会運営の中心が学会の組織改革や財務構造の再構築、生き残りのための統制可能費用の徹底的な圧縮などにあったため、学会運営は活動原資が不足気味となり、全般的にスローダウンを余儀なくされたが、その状況の中で学会事務所の移転、2006 年研究報告大会（グリーン五月祭）、環境経営セミナー、の開催をはじめ、学会誌･「サステナブルマネジメント」　５－２，６－１の発行、「環境経営格付の狙いと結果」、「サステナブル経営格付の狙いと特徴」の刊行、　学会ホームページのアップデート、サステナブル経営格付２００６などを実施することができた。また学会としてのアカデミックな活動として、環境研究会が、学会員のみでなく広く環境や CSR の研究者、実務者を集めて年間を通じ根気よく継続された。

以下、主要な項目について報告する。

１）　学会事務所の移転作業と人件費の圧縮

６月１０日を以って学会の事務所を虎ノ門から三田に移転した。これにより基本賃料を月額２８万円から１４万円に圧縮した。　　学生アルバイトを全廃し事務所員を週３日制（無残業）とすることで基本人件費を月額平均２０万円から１０万円に圧縮した。　　この二つの財務対策で年額２４８万円の支出削減が可能となった。

２）　環境経営学会　２００６年　研究発表大会（グリーン五月祭）

５月１２日、１３日の両日に亘って駒澤大学において行われた。

３）　環境経営（ＣＳＲ）セミナー

１０月３０日、幕張メッセにおいて　環境新聞社との共催により開催。

４）　サステナブル経営格付２００６実施と地球環境基金からの助成金の導入

18 社の企業を対象に実施した。結果報告は本日午後 3 時半より本会場にて行はれる。

５）　環境研究会活動

年間を通じ最新情報の共有、研究発表、課題討議　などを活発に実施した。

６）　書籍刊行事業

「サステナブルマネジメント」（学会機関誌）　５－２号、６－１号、

「環境経営格付の狙いと結果」、「サステナブル経営格付の狙いと特徴」を刊行、配布した。